

2022年02月15日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ウクライナ情勢】

ウクライナ情勢で、世界中が右往左往している、と感じる。

+++++

一方で、北京オリンピックが開催中だ。

ドーピング問題で、ワリエワ選手の出場がスポーツ仲裁裁判所の裁定に委ねられていた。

その裁定で、ワリエワ選手のフィギュアスケート女子個人戦への出場が認められた。

ただし、北京オリンピックが終了した後で、ワリエワ選手のドーピング問題の結論次第では、メダル剥奪などの措置が取られる可能性が残っている。

つまり、ワリエワ選手の出場に関するスポーツ仲裁裁判所の裁定は、目先の問題を先送りしただけで、ドーピングに関する判断を下していない。

+++++

ここで、ワリエワ選手のことを話題に挙げたのは、ワリエワ選手がロシアの選手だからだ。

個人的な見解だが、同じロシアの問題ならば、ワリエワ選手よりも、プーチン大統領がウクライナにどう対処するのかを、もっと注視するべきだ、と考えるからだ。

ウクライナは、日本から見れば、遠い国で、直接的な影響は、欧州諸国と比べれば、小さいのだろう。

だが、ワリエワ選手の報道よりも、ロシアとウクライナの問題は、それ以上に大きく報道されてしかるべき、と考えます。

+++++

一部の報道では、米国の見通しでは、明日(2月16日)にもロシアがウクライナに軍事行動を起こす可能性がある、としている。

また、米国は、北京オリンピック開催期間中であっても、ロシアが、軍事行動を起こす可能性がある、としている。

+++++

ロシアが軍事行動に出ることなく、交渉による解決を、個人的には望むが、現時点での様子では、解決には程遠く、交渉の継続は、単に問題を先送りしているだけに映る。

ウクライナのNATO加盟問題が、ウクライナ情勢の本質なのだから、ロシアも譲れないし、米国も譲れない。

元来、簡単に解決できる問題ではない。

+++++

「先送り」という意味で、ワリエワ選手の問題が、デジャブ現象のように感じられる。

+++++

+++++

(2022年02月15日東京時間13:10記述)